

地域再生計画評価調書

計画の名称	町田市まち・ひと・しごと創生推進計画	事業の名称	町田市まち・ひと・しごと創生推進事業
-------	--------------------	-------	--------------------

★基本目標 1

目標の名称	経済活動を盛んにする		関連事業の名称	経済活動を盛んにする事業		
事業概要	商業を中心とした産業の育成や起業の促進などを通じて、時代のニーズに応じたサービスを生み出し、地域で働ける環境をつくることで、地域の経済活動を盛んにし、活力ある地域を形成していきます。			具体的な事業	・ 起業・創業の魅力を発信 ・ 事業者の新分野・新技術への進出支援 ・ 里山環境の活用と保全 ・ デジタルシフトの推進／市役所の生産性の向上 ・ 行政サービスのデジタル化推進 等	
重要業績評価指標（KPI）			現状値 (計画開始時点)	実績値 (2023年度)	目標値 (2024年度)	備考
●居心地がいい場所と時間が町田市にあると思う市民の割合			76.4%	73.3%	78.9%	政策 3
●行政手続きの利便性が向上したと感じる市民の割合			49.1%	61.5%	56.8%	基本方針 1
取組結果	・ 「まちだ女性創業スクール」等の起業・創業の魅力を発信する創業推進イベントを実施するとともに、起業・創業に関する知識習得のためのセミナーや相談会を実施するなど、多くの希望者を支援しました。 ・ 産業財産権取得や新商品・新サービス開発に関する補助金を助成し、事業者の新分野・新技術への進出を支援しました。 ・ ハローワーク町田や町田商工会議所と連携し、市内事業者のマッチングを図る就職面接会を開催し、次代を担う人材の確保を支援しました。 ・ 町田薬師池公園四季彩の杜西園では、グリーンスローモビリティ導入や季節ごとのイベントの実施効果もあり、延べ134万人の来園者を集めました。 ・ 学校徴収金管理システム、防災WEBポータル等の導入や、LINEによる各種入会手続など、新たに156件の行政手続のオンライン化を実施しました。 ・ オープンデータコンテンツの充実のため、新たに163件のファイルを公開し、年間DL件数は前年度の約2倍となる約109万8千件に増加しました。			外部評価	・ 起業・創業支援や就職支援等を活発に実施できており、全体的に高く評価できる。Society4.0（情報化社会）からSociety 5.0（超スマート社会）に変わり、企業誘致の観点では大規模な工場等を建てる広い土地を用意する必要性は低くなっている。Society 5.0のまちづくりを進めることで、自ずと企業が集まると考えており、既存産業の活性化に加えて、今後のまちづくりに合わせて、町田市とともに発展していけるような企業を誘致できるとよい。実現のためには、この事業の認知度を高めるための市の発信の仕方が重要になってくる。 ・ 昨今の労働力不足に対応するには、副業や隙間時間を活用したスポットワークの活用も求められる。本業以外の異業種の仕事を経験することは、個人のキャリア開発につながるほか、新たな交流を通じた地域活性化や、本業退職後の地域での再就職支援にもつながる。 ・ フロントヤード改革度ランキング※で全国1位になるなど、行政サービスのデジタル化が活発に行われており、先進的な取り組みによる利便性の向上は大いに評価できる。	
2023年度 寄附件数	3件	2023年度 寄附額	300,000円		※全国自治体フロントヤード改革度ランキング2024（時事通信社）	

★基本目標 2

目標の名称	人々が交流するまちづくりを推進する		関連事業の名称	人々が交流するまちづくりを推進する事業		
事業概要	人々が集まる商業などの賑わい、文化芸術、スポーツ、地域づくりなど、地域資源をいかした町田発の取り組みを生み出す場や体制づくりを進め、多様な世代の活躍を実現します。また、これらの活動や交流の場を含むまちの魅力を発掘、創造、発信していき、多様な世代の活躍、交流を拡大していきます。			具体的な事業	・シティプロモーションの推進 ・シティセールスの推進 ・ホームタウンチーム等との連携の推進 ・地域活動団体支援 ・地域における福祉の困りごと相談支援体制の強化 ・中心市街地の賑わい空間の創出 等	
重要業績評価指標（KPI）			現状値 (計画開始時点)	実績値 (2023年度)	目標値 (2024年度)	備考
●居心地がいい場所と時間が町田市にあると思う市民の割合（再掲）			76.4%	73.3%	78.9%	政策 3
●市内で学習やスポーツに触れる機会があった市民の割合			32.9%	28.5%	38.0%	政策 4
●地域活動に参加したことがある市民の割合			25.8%	28.1%	30.0%	政策 6
●困ったときに助けてもらえる人がある市民の割合			73.0%	79.8%	75.1%	政策 6
●自分らしく生活できている市民の割合			83.1%	79.6%	85.7%	政策 7
●市外の人に薦めたい場所が思い浮かぶ市民の割合			74.7%	73.4%	79.2%	政策 8
取組結果	・ 2023年7月に新たに開設したシティプロモーションサイト「まちだで好きを続ける」は53,000人以上の訪問者を達成しました。 ・ 市内の観光スポットを回遊する謎解きイベントや、デジタルスタンプラリー等を開催し、市内外から17,700人以上の参加者を集めました。 ・ (仮称)町田木曽山崎パラアリーナの整備に向け、施設規模や導入機能等の検討を進めるとともに、民間事業者やパラスポーツ団体等へのヒアリングを実施し、施設の整備方針を策定しました。 ・ ホームタウンチームのFC町田ゼルビアやASVペスカドーラ町田をまち全体で応援する機運を盛り上げるため、町田駅前デッキのウォールギャラリーへの壁面装飾を実施しました。 ・ 2024年1月に「まちだ福祉〇(まる)ごとサポートセンター鶴川」を開設するとともに、鶴川地区に地域福祉コーディネーターを配置し、福祉の困りごとを相談できる体制を新たに整えました。			外部評価	・ 市の魅力の認知度向上のため、テレビやSNSなどを活用した情報発信や特色あるイベントを積極的に実施してきたことは高く評価できる。 ・ J1昇格で盛り上がっているFC町田ゼルビアなどのホームタウンチームと官民との連携を通じて、子どもから大人まで多様な世代の活躍や交流の場が生まれることを期待したい。また、効果的なシティプロモーションを図ることで、サポーター等の市外の人々を街中にうまく誘導できるとよい。 ・ 町田薬師池公園四季彩の杜西園内の直売所では、地域資源を活かして様々な地元の農産物や名産品が並び、多くの人で賑わっている。こうした既存の公共施設の有効活用によって、収入を得られる場所や交流できる場所をつくることは、地域の活性化にも繋がるため、今後、市内にある他の公共施設でも同様の展開ができるとよい。その際には、組織の垣根を超えて、分野横断的に取り組んでもらいたい。	
2023年度 寄附件数	11件	2023年度 寄附額	4,423,292円			

★基本目標 3

目標の名称	若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる		関連事業の名称	若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる事業		
事業概要	若い世代の結婚から出産・子育てなどの家庭を支えるための切れ目のない取り組みを進め、共働きでも仕事と両立しながら子育てしやすい環境、希望どおり子どもが持てる環境をつくります。			具体的な事業	・ 地域における相談支援の充実 ・ 送迎保育による多様な保育サービスの推進 ・ 保育の質の向上 ・ 新たな学校づくりの推進 ・ 学童保育クラブの整備 ・ えいごのまちだの推進 等	
重要業績評価指標（KPI）			現状値 (計画開始時点)	実績値 (2023年度)	目標値 (2024年度)	備考
●合計特殊出生率			1.21	1.12	1.25	政策 1 ※前年度数値を掲載。公表され次第差替予定
●子育てしやすいまちだと感じる市民の割合			64.8%	71.6%	67.8%	政策 1
●子どもがいきいきと育つ地域環境が整っていると思う市民の割合			53.0%	57.1%	58.1%	政策 2
●将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合			小6:82.8%	小6:78.0%	小6:84.9%	政策 2
			中3:67.6%	中3:63.4%	中3:71.3%	
取組結果	・ 出産後の助産師のケアを受けられるサービスについて、所得制限の無い利用料の減免制度を導入し、経済的負担を軽減した結果、申請件数が大幅に伸びました。 ・ 「町田市子どもにやさしいまち条例」の機運醸成を目的に、「まちだ若者大作戦」を実施しました。野外音楽フェスや児童養護施設の子どもと大学生をつなげる取り組みなど10のプランが進行し、子ども達自らの意見発信や、やりたいことが実現する機会を後押ししました。 ・ 小山田子どもクラブ「ゆめいく」が小山田地区を新設し、子どもの居場所の充実を図りました。施設の愛称は、地域の子どもたち自身で考え、名付けるなど、施設運営でも子どもの参画を重視しています。 ・ 町田市立小中学校全62校の内10校に設置していた地域学校協働本部を全62校に設置し、様々な地域学校協働活動を実施しました。			外部評価	・ 年少人口転入超過数の全国第1位(政令指定都市を除く)や、「子育てしやすいまちだと感じる市民の割合」の目標値達成など、子育て分野においては十分な成果が得られていると評価できる。 ・ 若い世代がライフプランを考える上で、昔は子育てしながらキャリアプランを考える傾向が強かったが、現在はキャリアプランを考えてから子育てを考える傾向に変化しつつある。そのため、直接子育てに関する支援だけでなく、キャリア支援などの様々な分野を紐づけて考えていく必要がある。既存の制度に固執することなく、変化していく当事者の考え方や価値観を確実に把握し、さらなる充実した子育て支援やまちづくりを進めてほしい。 ・ 今後の子育て世帯のライフプランにおいては、職住近接や三世帯同居・近居も重要なポイントだと思うので、支援する施策などを検討するとよい。	
2023年度 寄附件数	10件	2023年度 寄附額	1,400,000円			

★基本目標 4

目標の名称	時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守る		関連事業の名称	時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守る事業		
事業概要	健康づくりの拠点や支援体制の構築とともに、良好な住環境の形成を促進し、健康で充実して暮らせるまちづくりを進めます。また、限られた行政財源の下、市内の公共交通の質の向上と公共施設の拠点への集約を進め、日常生活の利便性を維持向上させていきます。			具体的な事業	・ 地域介護予防活動支援 ・ 大きな・速い交通の整備 ・ 避難行動要支援者の避難支援体制整備 ・ 都市計画道路の整備 ・ 公共施設再編の推進 ・ 市有財産の利活用 等	
重要業績評価指標（KPI）			現状値 (計画開始時点)	実績値 (2023年度)	目標値 (2024年度)	備考
●生きがいを持って暮らしている高齢者の割合			76.4%	73.5%	78.9%	政策 5
●市外の人に薦めたい場所が思い浮かぶ市民の割合（再掲）			74.7%	73.4%	79.2%	政策 8
●日常生活に対して安心感をもつ市民の割合			67.3%	73.9%	71.1%	政策 9
●公共施設の利用満足度			89.9%	70.3%	90.0%	基本方針 3
取組結果	・ 「認知症とともに生きるまち」を実現するため、まちづくりワークショップを実施したほか、認知症の人やその家族、支援者、地域住民等が参加できるDカフェを開催し、身近な居場所づくりに取り組みました。 ・ 多摩都市モノレールの町田方面延伸に向け、多摩市とともにモノレールの需要創出に資する沿線まちづくりの検討を進め、2024年3月に「モノレール沿線まちづくり構想」を共同で策定しました。 ・ 災害時の避難の新しい手法である「アウトドア防災」をテーマとし、屋外テントを活用した宿泊体験や火起こし・炊事体験等を行い、幅広い世代の参加者が楽しみながら避難生活に必要なスキルを身に付けました。 ・ 市庁舎のエネルギー使用量削減のため、ビル・エネルギー管理システム（BEMS）を使って得られたデータを分析し、活用することで最適な空調管理を行い、CO2排出量を削減しました。また、町田市バイオエネルギーセンターで発電を行っている電力供給事業者と契約を変更した結果、CO2排出量が大幅に減少しました。			外部評価	・ 市の認知症の取り組みは他市と比べても進んでおり、高く評価できる。地域で健康に、充実して暮らしていくには、健康寿命を伸ばす必要があり、高齢者の就労や社会参加の支援も重要となるため、まちづくりにリンクできるとよい。 ・ モノレール延伸は、市民の関心事であり、まちづくりの上でも非常に重要であるため、より積極的に市民の認知度を上げることに努めてもらいたい。例えば、機運醸成のため、延伸予定のルート上でイベントを実施するなど、市民はもちろん市外からも注目を集められるとよい。 ・ 災害に強いまちづくりは、居住地を選ぶ際の重要な項目である。今後も引き続き、震災はもちろんのこと、コロナのような感染症への対応を強化し、安全・安心なまちづくりに取り組んでももらいたい。 ・ エネルギーは、「創る・貯める・無駄を省く」ことが重要である。町田市バイオエネルギーセンターの事例のように、エネルギーの地産地消を実現する事業を拡げ、他の公共施設にも展開できるとよい。	
2023年度 寄附件数	4件	2023年度 寄附額	1,836,424円			